

日本で開発された光ファイバ量産製法

登録番号	第 00274 号		
登録年月日	令和元年9月10日	登録区分	第二種

名称 (型式等)	VAD法光ファイバ母材製造装置
所在地	東京都武蔵野市 NTT技術史料館
所有者 (管理者)	日本電信電話株式会社 情報ネットワーク総合研究所
製作者(社)	早川鉄工所
製作年	1977年頃
初出年	1977年
選定理由	VAD (Vapor-phase Axial Deposition, 気相軸付) 法石英系光ファイバの量産製法の開発に用いられた実験装置である。堆積装置、透明化装置、線引装置、制御装置、改良された原料供給装置が残されている。得られた実験データが1977 (昭和52) 年7月に東京で開催された光 IC/ファイバ国際会議 (IOOC' 77)でのVAD法発表のベースになった。今日では、世界の通信用光ファイバの約60% (日本では90%以上) がこのVAD法を基本として製造され、通信インフラストラクチャを支える技術として重要である。
登録基準	一ーハ (新たな科学技術分野の創造に寄与したもの) 二ーイ (国民生活の発展、新たな生活様式の創出に顕著な役割を果たしたもの)

公開・非公開	公開
--------	----

写 真



その他参考となるべき事項	
--------------	--